

第2回ふくいの森林・林業のあり方検討会における主な意見

1. 第1回あり方検討会での各委員の意見に対する対応について

- ・ B材工場誘致は慎重に考えた方がよい。結局どうやってB材を価値あるものにして木材需要を上げ、林業従事者の給与を上げるかが重要。温浴施設や木質バイオマス発電等の燃料として木材利用を考える必要もあるのではないかな。
- ・ ふくい林業カレッジは研修期間が1年あり、卒業後も数年間林業に就業する必要があるため、新規就業者を確保・育成するにはハードルが高い。カリキュラムに柔軟性を持たせ間口を広くするなど、カレッジをフレキシビリティにすることで県内林業従事者の増加につながるのではないかな。
- ・ 外国人の雇用について、他業種で雇用された人材を林業で活用するといった制度の緩和を国に働きかけてみてはどうか。
- ・ 林業従事者の所得向上を達成するには、サプライチェーンの中で、原木をどう評価し、用途別に出荷先へ輸送するのか、そこの効率化が非常に重要になってくる。
- ・ 航空レーザ計測結果は情報インフラであり、クラウドで共有するだけでなく、その先の現場で作業するための情報通信という意味合いの展開を具体的に記載した方がよい。今後5年間におけるレーザデータの活用策を具体的に示せば、現場サイドでもイメージが付きやすくだらう。

2. 次期ふくいの森林・林業基本計画（仮称）骨子（案）について

(1) 骨子案の全体像と概要

- ・ 基本理念案の「地域を支える林業」は福井県全体への恩恵という意味もあり非常に大事な文言だが、一方で「儲ける林業・稼げる林業」はやや品に欠け、目的よりも手段寄りの文言なので再考した方がよい。
- ・ 「稼げる」は企業評価でも使用されており、真面目に地道に稼ぐという捉え方ができるが、「儲ける」は良い意味でない部分も含まれ違和感がある。例えば「地域を支え、稼げる林業」、「稼いで地域を支える林業」だと真面目にしっかり取り組み、地域も含まれるのでよいのではないかな。

(2) 「Fukui Forest Design」推進プロジェクトについて

- ・ 「コミュニティ林業」、「自伐型林業」、「半林半X」などの言葉の定義を明確にすべき。
- ・ 所得向上、人材確保を進めていく上で、県産材の需要先を確保し、需要量を上げていくことが一番重要なので、需要を上げる施策も分かりやすく記載するとよい。
- ・ 県内の製材所は減少傾向にあるため、ふくい林業カレッジのような新規就業者を確保・育成するような施策を実施してほしい。
- ・ ICT技術を活用した施業システムと木材需給調整システムを一体化したスマート林業の考え方を持ってほしい。
- ・ 県産材が住宅、非住宅で使用されるにはグレーディングが必要である。また、産業用資材としての需要も考えていかないと、県産材はA材、B材、C材だけの話になってしまう。山には価値があり、丸太をもっと搬出すれば産業が育ち、「稼ぐ」に繋がっていく。
- ・ 木材需給調整システムにおいて、川上と川下がどのような情報を共有するのか、そのためには同じ指標を持って取り組む必要がある。川上と川下の繋がりの部分をどのようにしていくのか、より明確な形で計画に記載すべき。

- ・年輪幅と強度には関係性があり、低密度植栽を進めることは材の強度が下がる可能性があることを認識した上で、川下が求める材に対し川上がどういった丸太を生産していくのか議論し、全ての植栽を低密度植栽にするのではなく、用途に応じた施業をしてほしい。
- ・主伐が増えていく時期だからこそ様々なデータを収集できる。生産性のデータから林業適地かどうか判断したり、材質からその後の再造林の手法に活かしたりできるため、サンプリングや定点観測など何らかの形で取り組めばより良くなる。
- ・B材工場誘致は難しいので、A材を2、3万㎡挽くような工場を県内で作り、構造材を県外産から県産に転換し、地域内でお金が回るような工夫をすると良い。
- ・B材工場は県産材をコモディティ化し付加価値を生まない。少量多品種に対応できる製材所を大切に、建築資材として高付加価値製品に加工していくべき。また、技術力のある建築士や工務店との連携により木材の価値は高くなるので、施策を充実した方が良い。
- ・県内製材所において大径材から平角や挽板を生産すれば、県産材の価値を高めることができるので検討してほしい。
- ・今年度、県内森林組合において中間ヤードや立木の情報等を共有する仕組みづくりに取り組んでいる。また、年間を通じて林業に従事できるような労務のマッチングにも取り組んでいくこととしており、それらも次期計画に盛り込んでほしい。

(3) 「森林を『活かし』『守り』『慈しむ』」推進プロジェクトについて

- ・自伐型林業に取り組む者はバックホウの運転技術を有しているので、「大規模山地災害に対応・貢献できる人材の育成」に加えてもらえれば技術を活かせる。また、「大規模災害時の対応に向けた体制づくり」として、公民館等の避難所に薪ボイラーを設置して県産材の薪を備蓄しておく、災害時にも役立ち、県産材の利用にも繋がる。
- ・「天然更新可能な森林整備に適した主伐施業の実施」は、主伐・再造林施業なのか、針広混交林化なのか、ゾーニングで示されている概念のいくつかの区分の間のような表現なので、運用時に明記してほしい。
- ・カーボンニュートラル、J-クレジット等は若い世代も興味関心があるので、森林を主伐・再造林することは、将来にわたってCO₂吸収に貢献していくと位置づけてほしい。
- ・J-クレジットは、地域の中でストーリー性を持たせることが重要。一方で、単価が高くなりすぎると売れづらくなることにも留意する必要がある。
- ・幼少期の自然の中での体験や柔軟な発想から唯一無二のものを作り出せる学びの場が重要。そうした経験が将来山で働くことに繋がるのではないか。また、その体験にストーリー性があって福井でしか体験できないなら、それが売りになり、稼げる半Xの一つになるのではないか。
- ・大切にしてきた山を守りたいが人手が足りない地域と、移住に興味がある若者をマッチングできると良い。